

令和 2 年度 個別作業実施状況報告

1 事業の概要

(1) 目的

「霧ヶ峰自然保全再生実施計画」及び「個別作業計画」に基づき、霧ヶ峰の生物多様性の保全・再生を推進するため、生態系を改変するおそれのあるオオハンゴンソウ等の外来種の駆除と、多様な植物の生育を促すためにニッコウザサ等の優占群落の刈取を行うとともに、モニタリング調査を実施してその効果を検証する。

(2) 実施期間

令和 2 年 6 月 6 日から令和 3 年 3 月 31 日

(3) 活動状況

種別	実施地区	作業内容	作業日	参加人数	作業実績	備考
外来種駆除	池のくるみ	ハルザキヤマガラシ駆除	6月6日(土)	34人	160kg	
	車山高原	ヘラバヒメジョオン・フランスギク駆除	6月25日(木)	45人	180kg	
	強清水湿地	オオハンゴンソウ駆除(2回実施)	7月21日(火) 8月5日(水)	17人 45人	790kg 1,680kg	
	インターチェンジ草地	ヘラバヒメジョオン駆除(個別作業とは別枠)	7月16日(木)	13人	110kg	作業計画と別枠
小計	4地区		5回	154人	2,920kg	
草原再生	インターチェンジ草地	ススキ群落刈取・搬出(積込は8/31)	8月26日(水) 8月31日(月)	34人 8人	約0.7ha	刈取量 1,770kg
	車山肩東	ニッコウザサ群落刈取	9月5日(土)	16人	約0.7ha	
		ニッコウザサ群落搬出	9月8日(火)	25人		
小計	2地区		3回	75人	約1.4ha	
合計	6地区		8回	229人	2,920kg 約1.4ha	

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で一般のボランティアの募集を行わなかったことや、台風による延期等のため、昨年度より 89 人少ない延べ 229 人の参加により作業を行いました。その結果は、約 2.9 トンの外来種の駆除と約 1.4 ヘクタールの優占種の刈取を行うことができました。また、作業の効果を検証するためのモニタリング調査も信州大学農学部大窪教授に行っていただきました。

一方、これまでのススキ刈取・搬出作業によってススキの勢力が弱まったことでインターチェンジ付近草地にヘラバヒメジョオンの侵入定着が見られるため、個別作業計画とは別に試行的に駆除を行う必要性がある旨を確認しました。

2 個別作業の実施結果

(1) 外来種駆除事業

池のくるみハルザキヤマガラシ駆除作業

日時：令和2年6月6日（土）9時から12時

場所：池のくるみ小和田牧野組合お花畑付近からサフォーク小屋周辺

作業状況

池のくるみ地区に侵入定着が見られるハルザキヤマガラシの駆除を、小和田牧野農業協同組合、諏訪市を中心に実施しました。当日は募集定員50名に対し34名の参加となりました。

開会式をお花畑の奥の駐車場でいき、当協議会事務局からハルザキヤマガラシの特徴や駆除に関する説明を行い、翌年に生育するロゼット状の幼個体の同時駆除が効果的であることなどについても説明しました。

今年度は、開会式場所駐車場下斜面の周辺を中心に駆除する班、開会式場所からスタートして池のくるみのサフォーク小屋へ下る道路沿いを中心に駆除する班、サフォーク小屋周辺での駆除を行う班の3班体制で駆除を行いました。駆除方法は、外来植物駆除の手引きに基づき刈取で、ロゼット型の幼個体については抜取で行い、160kgのハルザキヤマガラシを駆除することができました。

焼却施設への運搬を翌月曜日に行うことで作業時間を長く確保できるようにしており、池のくるみの広範囲において駆除を実施することができました。



車山高原ヘラバヒメジョオン・フランスギク駆除

日時：令和2年6月25日（木）9時から11時30分

場所：車山高原スキー場ゲレンデ及びビーナスライン沿線

作業状況

車山高原に侵入定着が見られるヘラバヒメジョオン・フランスギクの駆除を、北大塩財産区、車山高原観光協会、茅野市を中心に実施しました。当日はあいにくの雨となりましたが、募集定員50名に対して45名の参加がありました。

開会式を車山ビジターセンター2階で行い、車山ビジターセンター職員からヘラバヒメジョオン・フランスギクの見分け方、駆除方法等について説明を受けました。

ヘラバヒメジョオンの駆除はビジターセンター裏のゲレンデで実施し、外来種駆除の手引きに基づき、なるべく地際から剪定バサミで刈取ました。また、フランスギクやハルザキヤマガラシといった他の外来種も見られ、合わせてそれらの外来種も駆除しました。しかし、広大な面積に繁茂しており、すべてを駆除することはできませんでした。

フランスギクについてはビーナスライン沿いに繁茂しており、車山高原スキー場から諏訪市側に向かった沿道と、車山高原スキー場から白樺湖側に向かった沿道を2班に分かれて駆除を行いました。フランスギクは、根と種子の両方で繁殖するため、抜取で駆除しました。

時折雨も強まる中でしたが、これらの駆除作業で、ヘラバヒメジョオン・フランスギク等を合わせて 180kg 駆除することができました。



強清水湿地・踊場湿原入口オオハンゴンソウ駆除

【第1回】

日時：令和2年7月21日（火）9時から12時

場所：強清水湿地

作業状況

強清水湿地に侵入定着が見られる特定外来生物オオハンゴンソウの駆除を、上桑原牧野農業協同組合、小和田牧野農業協同組合、諏訪市を中心に実施しました。当日は募集定員60名に対し17名の参加がありました。

当初は7月8日（水）に実施する予定でしたが、台風の影響により中止し、あらためて日程を調整し、7月21日（火）に実施しました。

開会式を強清水湿地で行い、当協議会事務局からオオハンゴンソウは、種と地下茎両方で繁殖するため根から掘取って駆除する必要があることなどについても説明しました。

5m×5mの大きさを6区画を設定し、概ね2人一組で編成した6班が各区画に入って掘取作業を行いました。また、設定区画の諏訪市側及び、駐車場向かいの区域については、刈払機による刈取を上桑原及び小和田牧野農業協同組合が実施しました。

作業時間内にすべての区画での掘取作業を終え、刈取班が刈取った駆除植物の搬出を行いました。

掘取及び刈取作業で、790kgのオオハンゴンソウを駆除することができました。



【第2回】

日時：令和2年8月5日（水）9時から12時

場所：強清水湿地及び踊場湿原入口

作業状況

強清水湿地に侵入定着が見られる特定外来生物オオハンゴンソウの駆除を、上桑原牧野農

業協同組合、小和田牧野農業協同組合、諏訪市を中心に実施しました。当日は募集定員 60 名に対し 45 名の参加がありました。

開会式を強清水湿地で行い、信州大学農学部大窪教授からオオハンゴンソウの特徴や駆除に関する説明を受け、外来生物法で特定外来生物に指定されており運搬や飼育が規制されていること、根から掘取って駆除することが効果的であるが刈取でも種子生産を抑制するため効果があることなどについて学習しました。

第 1 回で掘取作業をした場所に、5 m × 5 m の大きさで計 13 区画（予備の 1 区画を含む）を設定し、概ね 2 人一組で編成した 12 班が各区画に入って掘取作業を行いました。

刈取作業については、前回実施場所でオオハンゴンソウの芽が多く出ている場所に加え、前回実施できなかった場所も併せて、牧野組合を中心に実施しました。刈取を実施した範囲が広範囲となったため、刈取ったオオハンゴンソウを集める作業に時間を要しましたが、掘取及び刈取作業で 1,680kg のオオハンゴンソウを駆除することができました。

また、踊場湿原については、諏訪市教育委員会を中心に作業を実施しました。



インターチェンジ草地ヘラバヒメジョオン駆除

日時：令和 2 年 7 月 16 日（木）9 時から 12 時

場所：霧ヶ峰インターチェンジ草地

作業状況

霧ヶ峰インターチェンジ付近のピーナスライン沿いの草原において、優占種であるススキ刈取・搬出作業によってススキの勢力が弱まったことによりヘラバヒメジョオンの侵入定着が見られるという信州大学農学部大窪教授からの指摘を受け、ヘラバヒメジョオンの駆除を目的に、個別作業計画とは別に試行的な扱いで、下桑原牧野農業協同組合を中心に実施しました。

ヘラバヒメジョオンが種をつける前の最も効果的な時期の実施としたため、8 月 26 日（水）のススキ群落刈取作業とは別の日程を設定し、当日は 13 名が参加しました。

開会式を強清水園地の広場で行い、事務局からヘラバヒメジョオンの特徴や駆除に関する説明を行い、なるべく地際で剪定バサミにより刈取る方法が効果的であるが、抜取の方法でも効果があること、作業区域や手順等を確認し、作業に入りました。

ピーナスライン沿いのエリアや、集中して繁茂しているエリアを中心に、刈取や抜取の作業を行いました。

ススキ群落刈取を行っているエリアすべてではありませんが、広範囲にわたって作業を行い、ヘラバヒメジョオンを 110kg 駆除することができました。

広範囲にわたり繁茂している状況であり、単年度の作業のみでは効果も薄いと考えられるため、来年度以降、個別計画に組み込んで継続していく必要があると考えております。



(2) 草原再生事業

インターチェンジ草地ススキ群落刈取・搬出

日時:(刈取)令和2年8月26日(水)9時から12時

(搬出)令和2年8月31日(月)9時から12時

場所:霧ヶ峰インターチェンジ草地

作業状況

霧ヶ峰インターチェンジ付近のピーナスライン沿いの草原において、優占種であるススキを刈取、草原外へ搬出することによりススキの勢力を弱め、多様な植物の生育する草原に再生することを目的に、下桑原牧野農業協同組合、諏訪市を中心に実施しました。当日は募集定員60名に対し34名の参加がありました。

開会式を強清水園地の広場で行い、事務局から刈取方法、作業区域、手順等を説明し、作業に入りました。また、昨年も参加していただいた霧ヶ峰のススキを活用している茅葺屋根職人の方から、事前にススキの活用状況等について聞き取り、事務局から説明しました。

感染症対策のため、例年より参加人数を絞りましたが、幅50m×延長140mの0.7haの面積を、牧野組合を中心とした14名で刈払い、刈取ったススキの大半を万能袋と防災シートを併用して道路沿いの2箇所に堆積しました。

搬出は、8月31日(月)に協議会事務局8名と収集運搬委託業者2名で実施しました。堆積したススキをパッカー車に積込み、堆肥として活用するため、委託した堆肥化施設へ1,770kgのススキを搬入しました。



車山肩東ニッコウザサ群落刈取・搬出

日時:(刈取)令和2年9月5日(土)9時から12時

:(搬出)令和2年9月8日(火)9時から12時

場所:車山肩東

作業状況

車山肩東側の防鹿電気柵設置個所において、優占種であるニッコウザサを刈取、草原外へ搬出することによりニッコウザサの勢力を弱め、多様な植物の生育する草原に再生することを目的に、霧ヶ峰高原牧野農業協同組合を中心に実施しました。今年度は刈取と搬出を別々に実施し、刈取作業は霧ヶ峰高原牧野農業協同組合を中心に16名、搬出作業は募集定員40名に対して25名が参加しました。

まず、9月5日(土)の刈取作業についてですが、開会式を車山肩の駐車場でいき、信州大学農学部大窪教授からニッコウザサの刈取に関する説明を受け、事務局からの説明で作業区域、手順等を確認し、作業に入りました。

刈取は電気柵内を100m×50mの4つのエリアに分け、そのうち2つのエリア内で0.7haの作業を実施しました。今年度は、昨年、一昨年に続き3年連続となるエリアと、昨年から2年連続になるエリアで刈取を実施しました。傾斜のきついエリアでしたが、概ね予定どおり刈取を実施できました。

次に9月8日(火)の搬出作業についてですが、万能袋と防災シートを併用することにより効率的に作業を実施し、刈取ったニッコウザサの多くを草原外へ搬出しました。しかし、人数が少ない中、刈取から搬出までの間に降った雨の影響で地面や刈ったササが濡れたこともあり、作業に大変な労力を要しました。

また、刈取作業時には種子を付けたニッコウキスゲが多数残っていたため、搬出作業前に、作業箇所に着ているニッコウキスゲの種子を可能な範囲で拾い集め、搬出作業後に、搬出が終了したニッコウキスゲの少ない場所へ播種しました。



3 まとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、一般ボランティアの募集を行わず、各回とも参加人数を絞って実施しました。また、台風や雨の影響による作業の延期等もありましたが、このような状況下においても、協議会関係の皆様にご尽力いただき、昨年度以上の実績をあげた作業もあるなど、想定以上の効果をあげることができました。

来年度も引き続きの取組を行う必要があるものと考えられます。

4 その他

信州大学農学部大窪教授から、インターチェンジ草地に広がるヘラバヒメジョオンについて、優占種であるススキ刈取・搬出作業によってススキの勢力が弱まったことにより侵入定着したとみられるとの見解が示されました。広範囲にわたり繁茂している状況にあり、駆除作業が必要であることから、来年度以降、個別計画に組み込んで継続していくことが必要と思われる。